

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

マラウイ共和国

カリラ地域開発プログラム(MWI-185723)



牛乳は僕に元気を与えてくれる。だから学校で頑張れるんだ

ADPの支援を受けて飼育を始めた牛に水を飲ませるエヴァンス君(11歳)

チャイルドストーリー

牛乳を飲み、食事をしっかり摂り、 元気に学校に通えるようになりました

カリラ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすエヴァンス君の両親は、トウモロコシやサツマイモ、大豆を栽培していますが、以前はエヴァンス君を含む4人の子どもたちに年間を通して十分な食事を与えることができませんでした。「いつもお腹を空かせて学校に通っていたので、授業に集中するのが難しかった」とエヴァンス君は振り返ります。

しかし、両親がADPの近代的農法についての研修を受けてから、収穫量が大幅に増え、子どもたちがお腹を空かせたまま学校に行くことはなくなりました。「以前は1ヘクタールあたり2～3袋のトウモロコシしか収穫できませんでしたが、研修で学んだ農法を実践した結果、8袋も収穫できるようになりました」と母親は喜んでいます。

また、ADPから乳牛の提供も受け、エヴァンス君は毎朝学校に行く前に牛乳入りのお茶を飲むことができるようになりました。子牛が生まれたらADPに返し、ほかの家族に提供される仕組みになっています。牛の糞は肥

料として使われ、これも収穫量の増加に役立っています。子どもたちが飲んで余った牛乳を販売することで、魚や野菜を購入するための現金を得ることもできるようになりました。

エヴァンス君の将来の夢は警察官になることです。「しっかり勉強して、両親が年をとったら助けたい」と元気に話してくれました。



両親のトウモロコシ畑の手伝いもします

経済開発プロジェクト

貯蓄組合が積極的に活動しています

2014年度も新たに23の貯蓄組合ができ、全161の貯蓄組合で積極的に活動が行われました。メンバーは全体で4,377人になりました。この活動を通して、農家が肥料や種子を新たに購入することができ、農業の規模が拡大しました。メンバーは必要な時に組合から融資を受けることができるため、経済的に苦しい中であっても互いに助け合い、安定的に子どもたちの教育費を支払ったり、医療サービスを受けられるようになってきています。

\$ 新たに**23**の貯蓄組合ができました



貯蓄組合の集会の様子

教育プロジェクト

子どもたちが質の高い初等教育を平等に受けられるよう取り組んでいます

2013年度の小学校の就学率は83.1%でした。就学できない17%の子どもたちは、保護者の理解不足、教育施設や教材の不足、意欲のある教師の不足、学校までの道のりが長いなどの様々な問題を抱えています。そこで、2014年度は特に意欲のある教師の数を増やすことと、教材など教育環境の整備に力を入れ、国立図書館と連携して学校図書館を充実させるなど、教室以外でも本や教材に触れる機会を増やしました。また、学校管理委員会や地域の体制を強化し、学校教育を監視する役目を持たせ、地域をあげて教育の改善に努めています。これらの結果、2014年度の小学校の就学率は86%に向上しました。



本や教材の整備・充実に取り組んでいます

✎ 小学校の就学率が向上 **83.1%** (2013年度) → **86%** (2014年度)

保健衛生プロジェクト

5歳未満の子どもたちの栄養状態が改善されてきました

自治体と協力して、5歳未満の子どもたちの栄養状態の改善に取り組んでいます。栄養不足の子どもたちに対して、その土地で入手できる食材を使って栄養価の高い食事を提供するプログラムを行っています。プログラムには412人の子どもが参加し、うち388人(94.2%)が適正体重に戻りました。またこのプログラムは、地域の母親が自宅で栄養価の高い食事を用意できるようになるための知識や技術の強化にも役立ちました。これらの取り組みにより、年齢に対して低身長の子どもの割合は2013年度の15.4%から13.5%に減りました。また、急性栄養不足(身長に対する低体重)の子どもの割合も3.9%から2.5%に減少しています。



母親が栄養価の高い食事について知識を得ることが、子どもたちの栄養改善につながります



栄養改善プログラムに参加した子どもの**94.2%**の栄養状態が改善

農業プロジェクト

多様で十分な農産物が生産できるよう取り組んでいます

2014年度も、農業組合に対する各種の研修にあわせて、灌がい農業の普及を行いました。また、野菜や果物、酪農等、多様な農業に力を入れてきました。220軒の農家と小学校1校の733人の生徒が果樹の苗木を、また15軒の農家が乳牛を受け取り育てています。これらの結果、年間

を通じて食料が確保できる世帯の割合が、2013年度の49.7%から2014年度は54%に増えました。その一方で、多様な食材で栄養バランスのよい食事を摂ることのできる世帯は、21.4%にとどまっており、今後の課題となっています。



年間を通じて食料が確保できる世帯が増加

49.7% (2013年度) → 54% (2014年度)



農業研修を受けて野菜の栽培に取り組む農家



支援地域の女性のインタビュー

貯蓄組合から融資を受け、食料品店を始めました

Q.ADPのどのような活動に参加しましたか。活動によってどのような変化がありましたか。

以前は伝統的な方法で農業を行っていて、収穫量が少なく苦しい生活をしていました。しかし、ADPの近代的な農法についての研修を受け、肥料を使うことや、交配作物や早ばつに強い作物の植えつけについて学び、実践しました。この結果、家族が食べるのに十分な食料を収穫できるようになっただけでなく、余った作物を売って肉などほかの物が買えるようになりました。また、村の貯蓄組合に参加し、小規模ビジネスを始めるための研修にも参加しました。組合からお金を借り、小さな食料品店を始めることができました。

Q.今の夢を教えてください。

村の人にもっといろいろな物を売ることができるよう、店を大きくしたいと思っています。



近代的農法を実践しつつ小さな食料品店を営むエスナルトさん(左、32歳)と家族



ADPスタッフ・インタビュー

Q.ADPで毎日どのような仕事をしていますか。

開発推進員として、地域のボランティアと協力しながら、子どもたちが健康に過ごし教育を受けられているか、また心身の虐待を受けることなく健やかに成長しているかを確認しています。子どもたちや家族がADPの活動に参加するように促したり、子どもたちの生活に何か問題がある場合は、改善のために必要な行動をとることもあります。

Q. 仕事をしていて難しいと感じることは何ですか。

カリラ地域は土地の起伏が激しいので、移動が大変です。主にオートバイで支援助内を移動しています。

Q. ワールド・ビジョンで働く原動力となっているものは何ですか。

子どもたちは、適切な指導と配慮のもとで育てられ

ば、将来素晴らしいリーダーになる可能性を持っています。支援活動によって、困難な状況にある人々の生活水準を向上させることができるということ、この組織で20年働く中で私は実際に見てきました。子どもたちが成長し、人々の生活が改善するのを楽しみに働いています。



カリラADPスタッフ ジョセフ・チココ (47歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルドの成長を確認するADPのスタッフ

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

MWI-185723

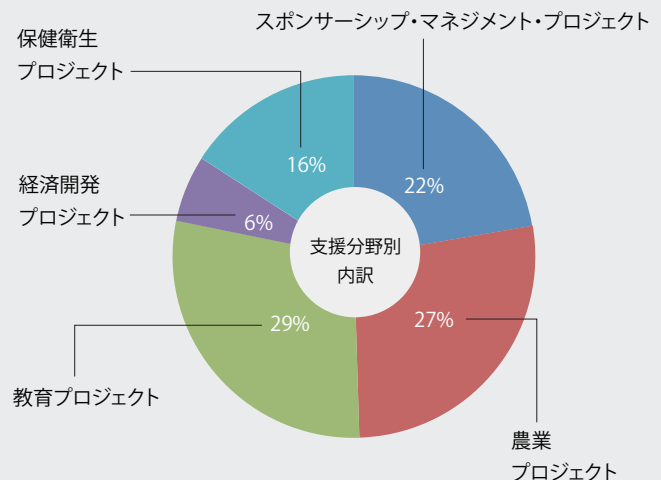
収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	54,373,838
当期支援額	54,373,838
前期繰越金	-2,992,666
プログラム支援額合計	51,381,172

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	10,224,057
農業プロジェクト	12,491,711
教育プロジェクト	13,151,413
経済開発プロジェクト	2,722,441
保健衛生プロジェクト	7,279,285
プログラム支出額合計	45,868,907
次期繰越額	5,512,265



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)

FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp

e-mail：dservice@worldvision.or.jp